

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	コミュニケア24浦安いまがわ館
(ユニット名)	2F
所在地 (県・市町村名)	千葉県浦安市今川2-13-10
記入者名 (管理者)	各務 由美子
記入日	平成 21年 2月 29日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

しゅきょう 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『地域に溶け込んだ生活』『普段の暮らしの継続』を目指す理念をつくりあげている。		
	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内の各所に掲示したり、定例会などで理念を確認し合いながら実践しており、ケアの振り返りとしても活用している。		
	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議で集まって頂いたご家族や、地域の方々に理念について説明し、浸透を図っている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている	散歩に出かける時など気軽に挨拶をしたり、立ち話をするなど日常のお付き合いをしている。職員は利用者と隣近所の方が気軽に会話できるよう努めており、隣近所の方から声をかけて下さる機会も多い。		
	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	市社協主催、自治会員が中心で行なっている『今川ふれあい広場』や、地域サークルに参加したり、日常的に交流している。お祭りや敬老会などの行事には必ず参加している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	浦安市、市内の地域密着型サービス事業所と協力して地域に役立つことはないか相談したり、出前講座を開催して認知症ケアについて勉強会を行っている。	○	利用者と散歩に出かけた時にゴミを拾ったり、外出機会が多いことを活かして防犯活動に参加するなど、密着した地域貢献にも取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年自己評価及び外部評価に積極的に取り組み、定例会で具体的な改善策を話し合っている。職員の振り返りや気付きの為に、最大限活かしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や参加者の皆様から多くの意見を頂き、服薬や研修、地域交流など運営推進会議で話し合った意見をサービス向上に取り入れ、活かしている。運営推進会議で話し合うテーマを評価内容から抜粋して活用している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域密着型サービス事業者連絡会、介護サービス事業者協議会などが定期的にあり、話し合う機会となっている。浦安市との連携により、他サービス事業所間との交流ができることで視野を広げた取り組みが可能となっている。	○	現状にとどまらず、継続して連携をとりながら更なるサービスの質の向上や、活動を広げていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人制度を利用している方がいる。定期的に定例会で勉強会を行っており、学ぶ機会を持っている。	○	社会福祉協議会へ協力を仰ぎ、外部関係者を講師として招き、勉強会を行いたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員会議において虐待は度々テーマとして取り上げられ、学んでおり、徹底した防止に努めている。日々の業務の中で虐待が起こらないよう職員同士で注意を払っている。	○	外部関係者を講師として招き、勉強会を行いたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>十分な説明、アセスメントを経て、契約となるが、まずは短期体験利用期間を設け、サービスの実際をみて判断いただいている。また、契約の際には本部担当者の出席も求め、書面の読み合わせをし、一項目ごとに懇切丁寧にご理解、ご納得を頂いている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者から不満や苦情があった場合は、申し送りや定例会などで職員全員が把握するよう努め、改善に向けて努力している。また、介護相談員が月に一度訪問し、外部者へ思いを伝えられる機会となっている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に1回、日々の個人記録、モニタリング、お預かり金精算書、便り、写真、行事予定、結果などを郵送している。状態の変化があった場合や事故発生時など必要に応じて随時電話連絡を行っており、ご家族様来館時には職員が近況を伝えている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>外部評価のご家族様アンケートをもとに運営推進会議で話し合い、外部者へ伝わるよう努め、改善に向けた努力をしている。苦情やご意見を頂いた際には、申し送りや定例会などで周知し、職員全員で改善に向けて取り組んでいる。</p>	<p>○ 外部評価だけではなく、グループホームでアンケートを作成し、言いにくい思いを汲み取り、改善していきたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定例会による全体会議やユニット別の話し合い、社員会議など定期的な意見や提案を出せる機会を設け、意見交換しながら運営に活かしている。職員個々に話を聴く機会を作り、一人ひとりの職員の思いを聴き、反映させている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>個別に行きたい場所へ出かける時や、外出時など柔軟に勤務を調整しながら支援しており、利用者や家族の要望に添えるよう対応している。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は最小限に努めており、異動後にも交流できる機会を作るなど配慮している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>入社時に本社にて新人研修を5日間実施。各職員の段階に応じて毎月勉強会を兼ねた会議へ参加している。外部研修へも積極的に参加できるように研修費の補助を行っている。私情により外部研修へ参加できない職員へも定例会で勉強会を行っており、学ぶ機会を設けている。</p>	<p>○ 内部研修を充実させていきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>「地域密着型サービス事業者連絡会」により他事業所との交流や話し合いの機会がある。また、各事業所職員が他施設へ実習に出向き、職員同士が交流し質を向上させている。</p>	<p>○ 継続して職員同士の交流の場を持てるよう働きかけていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員のストレス軽減の為、休日や休憩時間を確保する努力をしている。職員一人ひとりの話に傾聴する時間を作り、思いを受け止めている。</p>	<p>○ 休憩室が事務所の隣にあり、気軽に話せる環境である反面、ゆっくりと一人になれる場がないことが課題。ゆっくりできる環境であるよう配慮していきたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>月に一度、ヒアリングを行い管理者と面談し、事業所の状況を把握するよう努めている。管理者は職員全員と個人面談を行う機会を作り、職員の思いや努力を聞き取り応援するよう努めている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>契約以前にご本人、ご家族から不安なことやどう生活していきたいのかなど詳しく聴く機会をつくり、安心してグループホームへ入居できるよう努めている。</p>	<p>○ 他職種の職員が立会った上でアセスメントを行い、色々な視点でご本人やご家族の思いを聴いていきたい。ご自宅や施設または病院へ出向き現在暮らしている環境を把握することもアセスメントとして取り入れていく。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談を受けた時点では、必ず他の施設なども見ていただくよう勧め、ご家族の不安点、求めている点を伺い、いまがわ館として出来ることできないことを表明している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	例えば、戸外への徘徊がある利用者においてGPS位置情報検索システムを勧めたり、必要と見られる医療機関を勧めたりしたことがある。緊急入所などの場合、必要な支援の見極めが十分でないこともあるが、その場合でもご家族から、生活歴や既往、日常の様子などの情報をセンター方式のシートに記入していただき、対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	緊急入所した利用者以外については、まず短期入所契約をしていただき、馴染んでいただける可能性を見極めていただき、本契約に移行する方法をとっている。難しいと判断された場合でも、入所当初にご家族の頻繁な来訪や週に何日か帰宅するなどをお願いし、馴染みややすい環境を整備するように心掛けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	歴史を生きてこられた方々だけに、正にスタッフが教えていただくことも少なくない。そればかりではなく、レクや調理、食事などを共にすることで、支えあう関係を構築しつつある。	○	一緒に何かをする場合でも、『○○をして下さい』など、まだスタッフが願っている場面があり、ご利用者の能動性を引き出せる関係を築きたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	大半のご家族が近隣に住まわれていることから、共働体制を組みやすい面があり、関係を大切にしている。また、次月の行動予定を送り、面会に来やすくしている。ただし、海外にご家族が住まわれているため、共働体制が取れていない方もいる。	○	ご家族間に温度差があるため、運営推進会議などへの積極参加を促し、より良い関係を構築していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	居室等で、居心地よく過ごせるようお茶をお持ちしたり、散歩や外出などがしやすい支援を行っている。また、関係改善への助言等も他、利用者の『今』が解るようにスタッフが伝えるようにしている。運営推進会議でも、スタッフの介護方法などを話し、ご家族の方の介護方法への戸惑いを解消できるような話題をテーマとして選んでいる。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	多くの利用者がもともと周辺地域に暮らしていなかったことから、馴染みの関係の維持は難しいのが現状である。周辺地域に暮らしていた利用者については、馴染みの美容院やスーパーに行ったり、墓参、一時帰宅などを支援している。	○	新しい馴染み(ボランティア、退職スタッフ、近隣の住人など)や場所、行事などを作り、その関係を継続していきけるようにしていきたい。また、個別対応で、多少遠距離でも、自宅・生家・墓所などを訪問する旅行をご家族と共に検討していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者間でもめることは多々あるが、一緒にレクリエーションを行ったり、家事をしたり、話をする機会を設けることで、関わりあえるように努めている。また、フロアの配置買え、席替えなどで対応することもある。	○	状況によっては、分離することも検討するが、狭い施設なので、スタッフの介入を優先的に考え、関係確立の支援を行って行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	転居された利用者とは、スタッフが年賀状や書状、面会等で関係を継続している。また、外食レクに参加していただいたこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネジメントにセンター方式を採用して、思いや意向の把握に努めている。意向などの発露が十分できないご利用者についても、“笑顔”がうまれるような暮らし方を把握するように努めている。	○	まだ十分、センター方式を活かしているとはいえない。また、意思を伝えることがむづかしくなっている利用者もいることから、より本人本位の検討をより充実していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネジメントにセンター方式を採用して、これまでの暮らしの把握に努めている。入所時にご家族に、分かる範囲で、生活歴やなじみに暮らし方などを、センター方式に記入して頂き、把握の一助としている。	○	情報の把握が十分行われていない(行えない)利用者もあるため、行動からの類推等で、充実させていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケアマネジメントにセンター方式を採用して、個々の過ごし方、心身状況、有する力の現状等の把握に努めている。	○	状況の変化などを素早く判断できる観察眼を外部研修や勉強会を通して育成していきたい。また、個人の気付きを素早くスタッフ間で共有できるようにしたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族の意向などは何うが、本人(出席されない場合もある)と施設スタッフ中心の短時間カンファレンスで介護計画を作成している。	○	利用者ご家族の来訪にあわせた、短時間のカンファレンス、スタッフの集まれる際の集中カンファレンスなどを増加させ、より充実した介護計画を作成していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しは、施設スタッフ中心の短時間カンファレンスで実施している。状況の変化に応じた見直しは、退院後など状況に大きく変化がある場合に、当面の介護計画として、主治医等の意見をもとに計画作成担当者が作成している。医学的処置等については、計画に盛り込まず、申し送り(ノート記載含む)等で対応している。	○	集中カンファレンスなども組み入れた、より充実した見直しを実施していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録が単にご利用者様の様子を記しただけの場合もあり、介護計画に直結していないことも少なくない。また、個人記録に追加して、個人活動簿を記入し、日々の過ごし方が分かるようにしている。	○	記録の充実を図ると共に、実践への反映を果たしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個別対応の形で、帰宅支援、墓参支援、馴染みの美容院へ行く支援、温泉旅行支援などを実施している。	○	個別対応支援の充実を、図って行きたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	「ボランティアセンター」との共働(望むボランティアを頼んだり、ボランティア研修を受け入れたりしている)、今川自治会、今川地区老人会(麻雀に常時参加)、警察、消防(救命救急講習、避難訓練指導)、とも(障害者支援施設)、地区社協、富岡公民館、図書館などの協力を仰いでいる。	○	念願であった今川自治会とコネクションができ、連携して行える活動を模索していきたい。また、防災訓練等に地域住民の協力を仰いで行きたい。更に、今川学園(保育園)、新浦安教会(クリスマスコンサート)については、交流が中座している為、再度協力を仰ぐよう折衝したい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	GHであり、介護保険上の他のサービスの利用は限定されているが、インフォーマルなサービスの活用を始め、医療保険上のサービス、福祉機器の購入などのサービスについて他のサービス事業者と話し合い、利用している。また、運営推進会議の場などを通し、地域包括センターのケアマネジャーなどに協力を仰いでいる。	○	更に、インフォーマルなサービスを充実させ、ご利用者の新しいなじみ作りを支援して行きたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議等を通じて、意見を交換し協働する体制をとっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則的に、提携先医療機関を紹介しているが、必要に応じて他の医療機関へ変更する支援を行える体制にしている。医療上大きな変化があった場合は、本人、ご家族、主治医、いまがわ館スタッフが集まって、意見交換し、情報を共有する体制を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>必要な利用者について、メンタル医の定期往診を受けているほか、受診の必要な利用者については受診支援を行っている。</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>看護職員2名(1Fと共通)を抱え、かつ提携先医療機関とのオンコール体制を有し、協働体制を確保して支援している。</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時は、医療機関、ご家族、施設スタッフ(看護師含む)を交えて、安心して過ごせるよう話し合うと共に、入院中は洗濯や消耗品補充などを受け持ち、かつご家族との面談、スタッフの来院などによって情報を集め、早期退院を支援している。</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>本人の意見を聞き、ご家族・医療機関を含めて話し合い「看取りの同意書」を作成している。また、必要に応じて、改めて同意書を取り交わす体制も有している。</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>24時間看護が必要な場合は、訪問看護などの協力を得る必要があるが、提携医療機関(主治医)が重度化利用者の支援に積極的であり、いまがわ館としては最大限努力を払って受け入れていく考えである。</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>入院を含め、関係者による話し合いを行い、いまがわ館からはご家族了解の下、必要なすべての情報を提供する用意が出来ている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	さりげないトイレ誘導をしたり、ご利用者様に対して常に“人生の先輩”と言うことを心掛け、状況に応じた言葉かけを心掛けている。なお、トイレは居室にあり、個別使用している。個人情報については、保護規定を設けており、スタッフに対しても雇用契約で個人情報の保護を規定している。	○ 顔馴染みになることによって、慣れすぎることはないよう、ご利用者様に失礼の無い言葉かけを強化していく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	朝食時の主食の選択や、オリジナルメニューをご利用者様と一緒に考えたり、夕食時、希望によって晩酌をしている。また、レクや外泊等や利用者個別に対応した墓参・買い物・美容院などへの外出も希望に添って実施している。希望が出てこない場合も少なくないが、思い出話などによって、思いや希望が表しやすい環境を整えるように支援している。	○ 個別に対応した活動を増やすことによって、ご利用者様本位の支援が行えるよう対応にしていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様が自由に散歩に行けたり、入浴も希望に添ったときに入って頂いている。食事も、原則時間は決まっているが、状況に応じて利用者一人一人の時間に合わせて食事を摂れる体制にしている。また、『どこかに行きたい』と希望されることも多く、人員の許す限りではあるが、希望に添うように支援している。	○ 常時、個々のご利用者様の希望に添うことは難しい面もあるが、個々の生活リズム、意思に添える支援を意識していきたい。また、ご利用者様の状況によって、希望が変化していくことも勘案して、頻回に話し合いを持ち、確認し合えるように努めていく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者様の馴染みの美容室に行ったり、利用者が望んでいるおしゃれが出来る様、好みの化粧品を買いに行っている。また、馴染みの店がない場合には、訪問理美容などを利用できる体制をとっている。普段の生活の中や、外出の際に希望に合わせお化粧したりしている。	○ 身体機能が落ちてきたことによって、よだれや食べかすで衣服が汚れることも多くなってきているので、注意深く見て、きめの細かい配慮を行っていきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の支度や片付けは、利用者と一緒にしている。食事時にお話したり、好きな音楽を流す、庭で喫食する等の雰囲気作りをして、楽しんで食事が取れるように努めている。食事制限や味の好み等、個別に対応する必要のあるものについては、極力添えるようにしている。	○ 食事時間にご利用者間の摩擦があり、席替えなどによって対応しているが、限度があるため、よりスタッフが和める食事の場を提供できるよう、配慮していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品については、特に留意している。夕食時、希望に添って晩酌をしたり、好きなおやつを一緒に買いに行ったりしている。また、おやつやお茶を楽しむために外出することもある。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	立ち上がり時や、ちょっとした日常生活の中で工夫し括約筋を維持し失敗を少なく出来る様支援したり、排泄チェック表を利用し、一人一人の排泄パターンを把握し、それに合わせた排泄支援を行っている。状態の落ちてきたご利用者様にも、出来る限り、綿パンツで過ごせるよう配慮している。	○	夜間オムツ対応のご利用者があるが、昼間は尿意の表明が出来るようになってきているため、トイレ誘導に移行できるよう支援していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせて入浴出来る様努めている。介助浴の必要な利用者についても、週3回以上を目安にして希望の時間帯に入浴できるよう支援している。保清の観点から、入浴の間隔を把握しやすいように入浴表にチェックを行なうなども合わせ実施している。温泉に行きたいという希望から、温泉旅行も行った。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々のご利用者様の状態にあわせて、居室温度や照明を調節している。また、安心して頂ける言葉がけや希望によって温かい飲み物を出したり、眠れないときは食堂でスタッフと共に過ごしていただいたりしている。夜間は原則1時間間隔での巡回を行ない、必要に応じて回数を増やし、環境整備に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一緒に食事の支度をしたり、掃除をするなど、日常生活の中でご利用者様のやる気を活かせるように支援している。また、趣味を活かした裁縫、句作、習字、茶の湯なども行っている。地域の老人会に参加し、麻雀を行っている利用者もいる。	○	意欲の消極的なご利用者もいるため、そのご利用者がたの力やペースに添った意欲が引き出せるよう、センター方式の活用などによって、支援を進めていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部のご利用者様はお金を持ち、自由に買い物へ行ったりしている。	○	お金を持つことの重要さは理解している為、一緒に買い物行った折などに使っていけるように支援したい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご利用者様の判断で自由に散歩に出かけたり、買い物へ行ったりしている方もいる。時折道が分からなくなってしまうご利用者様もいるので、携帯電話やGPSを持って頂いている。又、外気浴をしたり、日々の状況に応じて買い物、喫茶店などにも出かけている。	○	離設事故(スタッフの気付かないままに館を出られる)があることを考えると、なお十分な外出支援が行われているとはいえないことから、個々の状態に合わせて、頻度を増やすよう努力したい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月最低一回は外出レクを、希望を聞き行なっている。家族と一緒に初詣や外食にいけるよう、ご家族に働きかけ、必要な支援(介護タクシーの手配、移乗の手伝い・移乗介助の方法を教えるなど)も行っている。また、去年は温泉旅行にも出かけた。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持たれ、使用されているご利用者様もいる。ご利用者様が希望される時に電話をかけていただいたり、かける支援も行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会に来て頂いた時にお茶を出させて頂いたり、ご家族と利用者と一緒に食事を摂って頂いたりしている。また、食堂で他の利用者、スタッフを含め、一緒にお話しをするなど、極力打ち解けるような雰囲気作りに努めている。遠距離から入所されているご利用者様に、新しいなじみができ来訪された例もある。	○	ご家族以外の昔馴染みの方が来館できないことが多いが、ボランティアや離職したスタッフ等、新しいなじみが活用できる場を作って行きたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束廃止委員会を中心に、言葉や態度による拘束などもなくすように努めている。職員全員が拘束3原則を理解し、実践出来るように外部研修、勉強会等で拘束撤廃の意識を確認合っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は利用者が自由に行き来で、来訪者が自由に訪れることが出来る様に施錠していない。居室には、鍵がつけられているが、利用者管理に任せている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	センサーなどの機械力も活用しながら、気を配り、見守りしているが、気付かないうちに外出されたりすることもある。	○	利用者様がその日着ていた物、持ち物を把握していたり、車椅子の利用者様が角を曲がれなかったりして困っている時等、些細な事でも気付き、配慮出来るよう努めていきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	嗜好品の自己管理が難しい場合には、1度職員側で預かり希望に応じてお出ししている。また、入歯洗浄剤の管理が難しい場合も、使用の都度、一緒に洗浄している。	○	やむを得ず職員管理している所があるので、出来る限りご利用者様に添った対応をしている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定例会や勉強会にて話し合いをしているほか、外部研修などにより知識を習得している。また、転倒事故、誤薬・服薬ミスに対する対処法などを含めマニュアル化している。	○	利用者様が常に一定ではなく、いつ何が起こるかという危機感、緊張感を持ち、事故防止の為の知識習得、心構えを推進し、共有していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	地震等の広域大規模災害についての対応を考えたい。また、地域住民の協力を仰いだ避難訓練も実施したい。
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	○	事故が万が一起きてしまった場合でも、迅速に家族と話し合いが出来る体制をとっているため、継続して行ける様努めていく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	○	小さな異変でも見つける『目』を、スタッフ一人一人が持つように努めていきたい。
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	○	処方変更があった際には職員皆が把握出来るよう申し送りノートを活用しすぐに確認出来る様努めていく。
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の状態に合わせて、好きな飲み物や捕食等工夫し、支援している。必要に応じて、水分チェック表を利用しバランスの把握に努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入所時、感染症の有無を確認している。施設マニュアルを基に、定例会や勉強会等で話し合うようにしている。ノロウイルス対策セットの設置、インフルエンザの予防接種も毎年受けて頂いている。流行時期には、外来者向けに、足拭き、マスク、アルコール消毒薬等を設置している。	○	外来者への対応が十分でないため、有効な手段を考えて行きたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	社内で、衛生巡回指導が定期的に行われ、衛生管理意識を高めるようにしている。調理用具については常に衛生を心掛け、最低でも一日に一回は塩素消毒を行なっている。賞味期限の厳守、冷蔵庫の整理も意識し行っている。	○	衛生巡回指導で、十分でない点が指摘されているので、個々の事案に対して衛生管理を行えるようにしていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	庭が駐車スペースとなっているため限界があるが、入り口付近などに花壇を設けている。また、玄関前の坂が急になっているので手摺りをつけたり、鏡の設置をして、安全に配慮している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に”利用者様の家”を心掛け、ゆっくりと落ち着いた雰囲気作りや会話をを行い、季節の花を活けたり、季節の行事を演出するなど、配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士で過ごせるように席の配置において工夫しているが、独りでゆっくりと過ごせるのは、今の共用空間のスペース上困難である。	○	車椅子を使用される利用者様が増えてきており、廊下にソファを置いたり共用する場所が作れないので、今ある中で利用者様が窮屈にならない様工夫・支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様個々に、自宅で使い慣れていた鏡台やベッド、ソファ等を持参し、使用して頂いている。「花を飾りたい」や、その都度出来る限り利用者様の意思を尊重した部屋作りをしている。また、入所以降の写真を飾ったりもしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	食堂での朝食時間帯に、空気の入替えを実施している。室温管理の難しいご利用者様を中心に、居室の温度管理も行っている。居室にトイレが併設されている関係上、換気には気をつけている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有部分の廊下やお風呂場に手摺りをつけている。また、車椅子で自走可能なように廊下は、車椅子がすれ違える広さを有している。居室では、トイレやベッドに介助バー、必要に応じて手摺りを設けている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	お部屋の前に一緒に作った鶴やお花を飾り、自分の部屋と解って頂ける様にしたり、クローゼットに、しまう洋服を書いて貼ったり、一緒に整理したりしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	駐車場となっており、限界はあるが、玄関の外に常時椅子を置いてあり、天気の良い日は外気浴を楽しんで頂いている。テーブルを出し、他階の利用者様とのふれあいも兼ねて一緒にコーヒータイムを設けたりしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように
		②数日に1回程度
		<input type="radio"/> ③たまに
		④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている
		<input type="radio"/> ②少しずつ増えている
		③あまり増えていない
		④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが
		③職員の1/3くらいが
		④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが
		③家族等の1/3くらいが
		④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

新興都市型のグループホームであり、ご利用者様の多くがもともとこの地で暮らしてきた方というわけではなく、ご家族のもとにこられ、それから入居されています。浦安と言う町に殆ど馴染みのないご利用者も少なくありません。そうした中で、新しいなごみを作っていくことが重要だと考えています。春の花見、夏の浦安花火大会、秋の三社祭、冬のクリスマスイルミネーション…。この町にも季節季節にすばらしい趣向が用意されています。こうした印象深い催しに参加し、周辺の人々と触れ合い、いずれは浦安や今川がご利用者様の馴染みの場になっていくように支援していきます。